

11 理科 単元の整理

やった分だけ合格が近くなる！
四季の生物

1 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

地球上には様々な気候の国があります。緯度0を中心に、北緯①(23.4)度の②(北回帰線)と、南緯③(23.4)度の④(南回帰線)の間の地域を⑤(熱帯)と呼んでいます。また、北緯⑥(66.6)度より北の地域を⑦(北極圏)、南緯⑧(66.6)度より南の地域を⑨(南極圏)と呼んでいます。日本は、その間の⑩(温帯)と呼ばれる地域に位置しています。この地域は、北の方は亜寒帯、真ん中を温帯、南の方は亜熱帯と分けられることもあります。

- | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|
| ① | 23.4 | ② | 北回帰線 | ③ | 23.4 |
| ④ | 南回帰線 | ⑤ | 熱帯 | ⑥ | 66.6 |
| ⑦ | 北極圏 | ⑧ | 66.6 | ⑨ | 南極圏 |
| ⑩ | 温帯 | | | | |

2 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

日本の国土は、現在主権が及ぶ範囲で考えると、最北端は北緯45度31分の①(宗谷岬)、最南端は北緯20度25分の②(沖ノ鳥島)、最東端は統計153度58分南鳥島、最西端は統計122度56分の与那国島に囲まれた地域で、大部分は③(温帯)地域にを中心に広がっているため、年間の平均気温は④(10)℃から⑤(18)℃であり、年間降水量は⑥(1000)mmから⑦(2500)mm程度で、⑧(四季)の変化が豊かであるとされています。⑨(アジア)大陸の東に位置するため、冬は⑩(寒冷少雨)、夏は⑪(高温多湿)という、⑫(東岸)気候の特徴をもちます。

- | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|
| ① | 宗谷岬 | ② | 沖ノ鳥島 | ③ | 温帯 |
| ④ | 10 | ⑤ | 18 | ⑥ | 1000 |
| ⑦ | 2500 | ⑧ | 四季 | ⑨ | アジア |
| ⑩ | 寒冷少雨 | ⑪ | 高温多湿 | ⑫ | 東岸 |

3 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

日本は、東アジアの季節風帯にあるので、季節風気候の特徴をもち、冬は①(北西)からの季節風が、夏には、②(南東)からの季節風が吹きます。この2つの季節風の入れ替わりの時期には、春から夏にかけては③(梅雨)、秋から冬にかけては④(秋の長雨)という2つの雨の多い時期があります。また、夏から秋にかけては南方海上から、⑤(台風)がやってきて、暴風雨・洪水・高潮の被害を受けることがあります。

- ① ② ③
- ④ ⑤

4 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

動物には、体温がまわりの温度につ入れて変化する、①(変温)動物と、まわりの温度に無関係に体温が、ほぼ一定に保たれている②(恒温)動物があります。一定に保たれている動物には、背骨をもち、体が羽毛におおわれ、卵を産む③(鳥類)や、毛におおわれ、親に似た子を産む④(ほ乳類)があります。それ以外の動物は、冬の間には体温が低下し、活動できなくなるので、さまざまな冬越しの仕方をして冬を越していきます。昆虫などでは、モンシロチョウは⑤(さなぎ)で、カマキリは⑥(卵)で、カブトムシは⑦(幼虫)で、テントウムシは⑧(成虫)で冬を越していきます。フナやコイなどの⑨(魚類)では水の底で、カエルなどの両生類では⑩(土)の中で冬を越します。体温が一定に保たれる動物でも、体が小さいなどのため、体温を保つのが困難になるコウモリやヤマネや、体が大きく餌が不足するクマなども、⑪(冬眠)して冬を越していきます。

- ① ② ③
- ④ ⑤ ⑥
- ⑦ ⑧ ⑨
- ⑩ ⑪

5 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

同じ株が生き続け毎年、新しい葉を茂らせる草を①(多年草)といいます。また、秋に芽が出て、冬を越し、春に花を咲かせて種子を作り枯れてしまう草を、冬を越すことから、③(越年草)といい、春から夏にかけて芽が出て、秋には種子を作り枯れてしまう草を③(一年草)といいます

- ① ② ③

6 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

日本の国土は、南北に長く、山がちなため、春のおとずれは①(南)の地方の②(平地)からやってきます。そして、少しずつ③(北)へ、山の高い所へと移動していきます。気象庁では季節の変化を、生物を観察することで読み取る作業もしており、ウメ、ツバキ、タンポポ、ソメイヨシノ、ヤマツツジ、ノダフジ、ヤマハギ、アジサイ、ススキの9種の開花を観察しています。このうち、サクラの一品種である④(ソメイヨシノ)の開花は、平年では大分・四国南部に3月25日ごろ、関東地方を⑤(3)月末に、やがて津軽海峡を⑥(4)月末に越えて、⑦(5)月中旬には、日本を通り抜けていきます。同じ日に開花した地域を線で結ぶと、開花の様子がよくわかります。地図上に示した、同じ日にサクラが開花するところを結んだ線をサクラの⑧(開花前線)と呼んでいます。

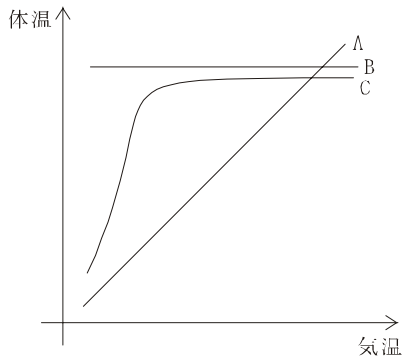
- | | | | | | |
|---|--------|---|------|---|---|
| ① | 南 | ② | 平地 | ③ | 北 |
| ④ | ソメイヨシノ | ⑤ | 3 | ⑥ | 4 |
| ⑦ | 5 | ⑧ | 開花前線 | | |

7 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

春は、南の地方の平地からおとずれます。そして、少しずつ北へ、山の上へとぼっていきます。これに対して秋は、①(北)地方の②(高い山)からやってきて、少しずつ③(南)へ、④(山のふもと)へとやってきます。秋になると⑤(落葉樹)と呼ばれる、冬に葉を落とす樹木では、葉の色を赤や黄色、茶色などに変えて散っていきます。この葉の色が変わることを⑥(紅葉)と呼んでいます。この目印として良く使われる「もみじ」は⑦(イロハカエデ)と呼ばれる植物で、同じ日に葉の色が変化する地域を調べてみると、サクラと同じような曲線が作れます。これを⑧(紅葉前線)と呼んでいます。良く似た曲線ですが、この曲線の日付は、⑨(北)の地方から、山の⑩(頂上)の方から、少しずつ⑪(南)の地方へ、山の⑫(ふもと)の方へと進んでいきます。

- | | | | | | |
|---|--------|---|------|---|-----|
| ① | 北 | ② | 高い山 | ③ | 南 |
| ④ | 山のふもと | ⑤ | 落葉樹 | ⑥ | 紅葉 |
| ⑦ | イロハカエデ | ⑧ | 紅葉前線 | ⑨ | 北 |
| ⑩ | 頂上 | ⑪ | 南 | ⑫ | ふもと |

8 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。



動物の体温と周りの温度を調べてみると、左のような3つのタイプの動物がいます。Aの動物では、周りの温度につれて、体温が変化しているので、①(**変温**)動物であるとわかります。イヌ・ヤマネ・カエルの3つの動物の中では、②(**カエル**)がこのような体温の変化をします。これに対してBの動物では、体温は周りの温度に関係なく常に一定に保たれている③(**恒温**)動物であることがわかります。先ほど挙げた3つの動物の中では、④(**イヌ**)がこれに当たります。Cの動物は、あるていどの気温までは体温が一定に保たれていますが、この温度以下に下がると、体温を下げ、活動を極端に切りつめるようになります。これは、温かい時期には、体温が一定に保たれているので、⑤(**恒温**)動物なのですが、冬の寒い時期に体力を使わないために⑥(**冬眠**)をして冬を越す動物であると考えられます。このような体温変化をする動物は、先に挙げ3つの中では⑦(**ヤマネ**)が当てはまります。

- | | | | | | |
|---|------------|---|------------|---|-----------|
| ① | 変温 | ② | カエル | ③ | 恒温 |
| ④ | イヌ | ⑤ | 恒温 | ⑥ | 冬眠 |
| ⑦ | ヤマネ | | | | |

9 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

鳥の間では、季節によって住む場所を変える、①(**渡り**)と呼ばれる行動を取るものがあります。春から夏にかけて日本に飛来して、子育てをするものを②(**夏鳥**)と呼んでいます。ハクチョウ・ツバメ・スズメの3つの動物の中で、これに当てはまるのは③(**ツバメ**)です。また、冬の寒い時期に、餌を求めて北の地方から日本へやってくるものもあります。このような鳥を④(**冬鳥**)と呼んでいます。これに当てはまる鳥は、先の3つの中では⑤(**ハクチョウ**)が当てはまります。そして、一年中日本にいる、先の3つの中の⑥(**スズメ**)は⑦(**留鳥**)と呼ばれています。

- | | | | | | |
|---|---------------------|---|--------------|---|------------|
| ① | 渡り | ② | 夏鳥 | ③ | ツバメ |
| ④ | 冬鳥 | ⑤ | ハクチョウ | ⑥ | スズメ |
| ⑦ | りゅうちょう
留鳥 | | | | |